

発電所だより 2025年10月号

10/17 公表 《2号機の特定重大事故等対処施設および所内常設直流電源設備(3系統目)の工事完了時期の見直しについて》

2号機の「①特定重大事故等対処施設」および「②所内常設直流電源設備(3系統目)」に係る工事について、設置期限である「2026年12月22日」までの完了を目指して取り組んできましたが、工事完了時期をそれぞれ「2028年8月」および「2028年3月」に見直すこととしました。

これらは大規模な工事であることから、設計の合理化や昼夜作業の導入など、早期の完成に向けた取り組みを継続し、安全最優先で一つひとつ着実に進めています。

こうした中、原子力規制委員会による詳細設計の審査が進み、工事仕様の詳細が固まってきたことから、工程を改めて精査しました。

その結果、建設業界の労働環境変化による影響など、当社の努力だけでは対応が難しい外的要因が発生している状況も踏まえ、工事完了時期の見直しが必要と判断したものです。

引き続き安全確保を最優先に、効率的かつ着実に工事を進められるよう、努めてまいります。

工事完了時期	《従来》	《変更後》
特定重大事故等対処施設	2026年 12月22日まで	2028年8月
所内常設直流電源設備(3系統目)		2028年3月

①特定重大事故等対処施設について

【設備概要】

- 特定重大事故等対処施設は、原子炉建屋への故意による大型航空機の衝突等のテロリズムに対応するための施設であり、シビアアクシデントに対処する機能への信頼性を向上させるためのバックアップ設備として位置付けられており、本体施設の設計及び工事計画認可から、5年以内(2026年12月22日まで)に設置することが求められています。

【特定重大事故等対処施設が有する主な機能】

(1) 減圧操作機能

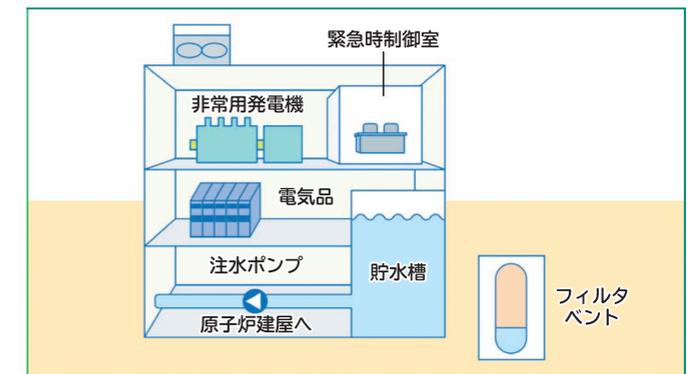
遠隔で既設の主蒸気逃がし安全弁を動作させ、原子炉圧力容器内を減圧する機能

(2) 冷却機能

遠隔で水源から、原子炉圧力容器や原子炉格納容器へ注水またはスプレーする機能

(3) 原子炉格納容器過圧破損防止機能

遠隔で格納容器圧力逃がし装置により、放射性物質を低減させながら、原子炉格納容器内のガスを大気中に排気することで、原子炉格納容器内を減圧する機能



特定重大事故等対処施設のイメージ

②所内常設直流電源設備(3系統目)について

【設備概要】

- 所内常設直流電源設備(3系統目)は、外部電源や非常用ディーゼル発電機など、複数の交流電源が全て喪失した際に、重大事故等への対応に必要な設備に直流の電気を供給するための設備です(設備の詳細は発電所だより9月号でもお知らせしています)。
- 現在設置済みである2系統の直流電源設備に加え、さらなる信頼性向上を目的に、新たに原子炉建屋に設置するものです。
- 女川原子力発電所の施設の配置上、原子炉建屋内に既に設置している設備を撤去したうえで、新たに床や天井、壁を設けて蓄電池や充電器などの電源設備を設置する必要があります。そのため、大規模な工事となっています。

発電所だより
9月号は
こちらから
ご覧いただけます



既設の所内常設直流電源設備(1系統目)

《小屋取浜の清掃を行いました》

9月10日、おながわの鳴り砂を守る会メンバー、宮城県立支援学校女川高等学園3年生、宮城海守会と発電所員が「鳴り砂」で知られる小屋取浜の清掃活動を行い、浜辺に打ち寄せられた流木やごみを拾い集めました。今後も地域のお役に立てるよう、清掃活動などに取り組んでまいります。



清掃活動の様子



拾い集めたたくさんのごみ

《交通安全活動を行いました》

9月24日、秋の全国交通安全運動(9月21日～30日)に併せ、発電所員および協力企業従業員21名が安全運転意識の向上を目的とした立哨活動を行いました。

当日は、飯子浜および野々浜地区において、交通安全メッセージが書かれたのぼり旗を掲げ、往来する車両に安全運転を呼びかけました。



安全運転を呼びかける発電所員と協力企業従業員

《第33回東北電力杯争奪ソフトボール大会が開催されました》

9月21日、女川町総合運動場において、第33回東北電力杯争奪ソフトボール大会(主催:女川町ソフトボール協会、協賛:東北電力 女川原子力発電所)が開催されました。

当日は、発電所員や協力企業従業員などで構成されたチームを含む、計14チームが参加。トーナメント形式により東北電力杯をかけた熱戦が繰り広げられました。

決勝は「アベ住建」と「ソフトボーイズ」の対戦となり、8対2で「アベ住建」が勝利。3年連続7回目の優勝を飾りました。



優勝
アベ住建

準優勝
ソフトボーイズ

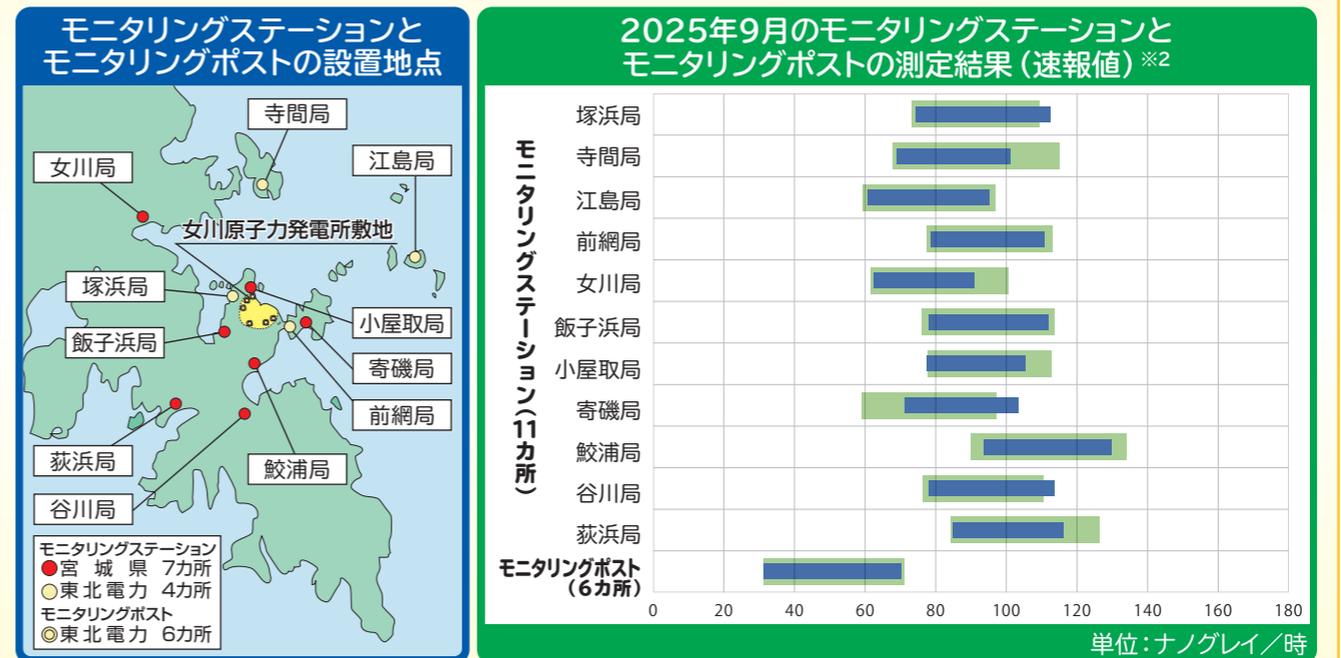
第3位
・オーカース
・万石メンバース



選手たちの全力プレーが光る、白熱した試合の様子

《発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングステーション※1やモニタリングポストで測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。2025年9月の測定結果は以下のとおりで、発電所周辺の放射線量は安定しており、発電所の運転による有意な変化はなく、環境への影響はありません。



※1 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。
 ※2 モニタリングポストの測定値は、検出器の種類が異なるため、宇宙線(宇宙空間を飛び交う高エネルギーの放射線)の影響分が含まれないことから、モニタリングステーションの測定値より20~40ナノグレイ/時程度低い測定値となっています。

